



元気っ子通信

令和2年9月25日

新型コロナで世の中はすっかり様変わりしてしまいました。

学童の生活で「大声を出さない」「密にならない」はなかなか難しいです。「正しく怖がる」ということを言われますが、人と人が間隔を開け、マスクをして、手洗いうがいをし、十分に注意していれば、ほぼ大丈夫ではないかと思われます。内向きになって、社会や個人がバラバラになっていては「人間の幸せ」とは逆方向になってしまいます。

さて、子ども達の様子ですが、1年生も下校後の流れをつかんできて、宿題をさっさと済ませ、みんなと追いかけて、ドッチボール、ままごと等に楽しそうに加わっています。上の学年の子は1年生にボールの投げ方を教えたり、ボールを手渡してあげたりしています。逃げ回ってばかりいた子達も随分うまくなってきました。

身体全体を使っての外遊びは身体作りに欠かせません。テレビ、ゲーム、おやつに浸っていると肥満も怖いですが、視力も弱ってきます。外で遊ぶことによって筋肉を鍛え、病気に強い身体を作ります。視力もいろんなものを目にするすることで、遠近の筋肉をしっかり作っていきます。ゲームばかりだと目の筋肉も動かす幅が狭く、視力が衰え、失明すると新聞の記事にありました。いろんな部位の筋肉が必要だということです。

毎日検温表を出してもらっていますが、指導員の前に放り出したり、「はい、どうぞ」等々、いろんな姿があります。これは一例にすぎませんが、言葉遣い、人に対する態度は言ったから身に付くものではありません。毎日の生活の中で自然に身に付いていくものです。親が手本となって教え導いてほしいと思います。

秋晴れの中、子ども達が皆、どの子とも仲良く楽しく遊んでいる姿が、指導員にとって何よりの喜びです。